平成22年11月

とりぎん　経済動向

鳥取県経済　９月の動き

概　況

県内の経済活動は、個人消費では、大型小売店販売額（百貨店）が消費者の低価格志向や厳しい残暑に伴う秋物衣料品の販売不振などが影響して前年を下回り、新車販売台数はエコカー補助金終了（9月7日受理分まで）に伴い乗用車は前年を下回ったが、総数は前年を上回った。建設関係では、公共工事請負金額が3ヶ月連続で前年を下回ったが、住宅着工戸数は3ヶ月連続で前年を上回った。生産活動は緩やかに持ち直しているが、個人消費や雇用情勢は回復に陰りが見えはじめ、政策効果の一部終了や円高の影響により、回復は鈍化傾向にある。

生産活動は、鉱工業生産指数が前月比（季節調整済）では横ばい、前年比（原指数）では14ヶ月連続で上昇した。生産指数（季調済）は、電気機械や食料品・たばこなどで低下したが、一般機械や金属製品などで上昇し、102.6（前月比±0.0％）と横ばいだった。出荷指数（季調済）は、一般機械などで上昇したものの、電子部品・デバイスや食料品・たばこなどで低下し、101.8（同▲5.3％）と2ヶ月連続で前月を下回った。在庫指数（季調済）は、電子部品・デバイスや金属製品などで上昇したが、一般機械やパルプ・紙・紙加工品などで低下し、85.0（同▲0.4％）と前月とほぼ同様であった。大口電気使用量は、パルプ・紙などで減少したが、主力の機械や鉄鋼などで増加したことから、11ヶ月連続で前年を上回った。

建設では、公共工事請負金額は、市町村と独立行政法人等が増加したものの、国と県が減少し、全体では前年比▲45.9％と3ヶ月連続で前年を下回った。新設住宅着工戸数は、貸家は3ヶ月ぶりに前年を下回ったが、持家が8ヶ月連続で、分譲住宅が3ヶ月ぶりに前年を上回り、全体では193戸（同＋14.2％）と3ヶ月連続で前年を上回った。

個人消費では、県内3百貨店売上高が前年比▲6.1％と30ヶ月連続で前年を下回ったが、スーパーは同＋0.9％と2ヶ月連続で前年を上回った。家電量販店はエコポイントと猛暑効果により同＋9.6％と13ヶ月連続で前年を上回ったが、ホームセンターは同▲5.0％と2ヶ月連続で前年を下回った。自動車販売では、新車販売台数が乗用車は16ヶ月ぶりに前年を下回ったが、軽自動車が10ヶ月連続で前年を上回り、総数は2,543台(同＋3.6％)と15ヶ月連続で前年を上回った。

雇用情勢は、新規求人数が2ヶ月連続で前年を上回り、新規求職者数は10ヶ月連続で前年を下回った。新規求人倍率（季節調整値）は1.02倍と前月（1.15倍）を0.13ポイント下回り、有効求人倍率（季節調整値）は0.62倍と前月（0.66倍）を0.04ポイント下回った。雇用保険受給者実人員は3,398人と10ヶ月連続で前年を下回った。

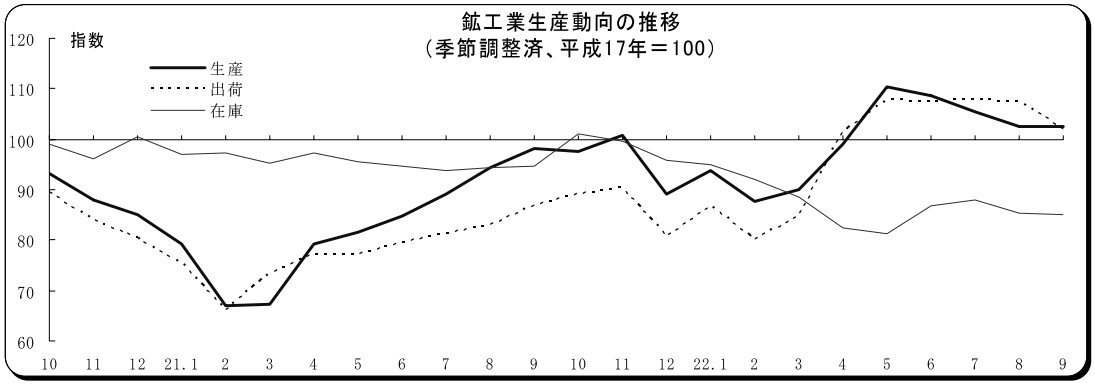
企業倒産は、件数が2件（前年比±0.0％）と横ばい、負債総額は117百万円（同▲26.9％）と3ヶ月連続で前年を下回った。

生　　産

【鉱工業生産動向】

9月の鉱工業生産動向では、季節調整済の**生産指数**は電気機械や食料品・たばこ等で低下したが、一般機械や金属製品等で上昇し、102.6（前月比±0.0%）と横ばいだった。**出荷指数**は、一般機械等で上昇したものの、電子部品・デバイスや食料品・たばこ等で低下し、101.8（同▲5.3%）と2ヶ月連続で前月を下回った。**在庫指数**は、電子部品・デバイスや金属製品等で上昇したが、一般機械やパルプ・紙・紙加工品等で低下し、85.0（同▲0.4%）と前月とほぼ同様であった。

原指数（前年比）では、**生産指数**は、食料品・たばこや電気機械等で低下したが、電子部品・デバイスや一般機械等で上昇し、102.0（前年比＋7.7%）と14ヶ月連続で前年を上回った。**出荷指数**は、食料品・たばこや電気機械等で低下したが、電子部品・デバイスや一般機械等で上昇し、101.3（同＋19.0%）と11ヶ月連続で前年を上回った。**在庫指数**は、プラスチック製品や金属製品等で上昇したが、食料品・たばこや電子部品・デバイス等で低下し、86.4（同▲10.5%）と10ヶ月連続で前年を下回った。



	鳥取県業種別鉱工業生産指数（平成17年＝100、前月比・指数は季節調整済、前年比は原指数）													全国鉱工業生産17年＝100
	鉱工業			金属製品	一般機械	電気機械	情報通信機械	電子部品デバイス	窯業土石	プラスチック製品	パルプ紙・紙加工品	繊維	食料品・タバコ	
	ウエイト		10,000.0	506.7	538.1	1,355.6	1,383.7	1,848.2	518.9	303.8	436.9	425.5	2,011.0	
	指数	前月比	前年比											
18年	107.6	－	7.6	4.0	23.4	5.7	36.6	2.9	▲10.9	▲ 0.3	3.3	6.4	▲ 1.3	4.5
19年	100.2	－	▲ 6.9	▲ 5.4	3.2	▲ 5.6	▲ 9.5	▲ 6.7	▲34.5	6.7	4.1	▲ 4.8	▲ 9.8	2.8
20年	93.9	－	▲ 6.3	▲ 4.4	▲25.6	6.1	×	▲ 0.9	▲ 9.2	▲ 1.7	▲ 2.2	▲ 5.2	1.4	▲ 3.4
21年	85.4	－	▲ 9.1	▲22.1	▲30.4	▲ 6.4	×	▲29.9	▲13.2	▲12.5	▲15.4	▲21.6	4.4	▲22.4
9	98.1	3.9	1.8	▲15.4	▲19.7	8.0	×	▲14.3	▲ 5.2	▲27.6	▲ 6.4	▲19.4	2.0	▲17.5
10	97.5	▲ 0.6	3.3	▲ 9.9	▲30.2	▲ 8.6	×	▲19.6	▲ 3.4	▲ 2.8	8.6	▲15.7	▲ 1.9	▲14.4
11	100.9	3.5	19.2	▲ 4.4	▲19.9	14.0	×	8.4	2.7	▲ 8.6	4.0	▲16.3	7.1	▲ 2.9
12	89.0	▲11.8	8.6	▲ 4.1	▲10.8	▲ 6.2	×	22.9	16.1	▲ 2.6	18.5	▲13.2	▲12.7	6.4
22.1	93.7	5.3	15.4	▲21.0	6.3	1.4	×	60.3	40.5	▲19.5	30.5	4.9	▲ 3.2	18.9
2	87.7	▲ 6.4	30.7	▲14.2	39.2	18.5	×	79.4	33.4	▲ 3.6	41.3	9.2	▲ 6.8	31.3
3	90.1	2.7	37.4	18.8	63.8	17.0	×	129.8	25.7	▲ 1.3	29.5	24.6	▲ 6.6	31.8
4	99.0	9.9	24.8	6.4	37.1	5.3	×	120.8	26.2	7.7	4.9	25.6	▲18.0	25.9
5	110.4	11.5	35.3	▲ 1.6	27.7	28.5	×	106.8	14.1	23.5	▲ 7.8	8.2	▲12.2	20.4
6	108.6	▲ 1.6	28.2	4.1	53.3	24.9	×	82.3	13.1	▲ 0.4	11.2	8.5	▲ 8.4	17.3
7	105.5	▲ 2.9	15.7	13.5	43.1	3.6	×	42.4	13.3	0.7	9.2	▲ 3.5	▲12.6	14.2
8	102.6	▲ 2.7	11.5	▲ 1.7	54.9	▲ 6.2	×	31.7	17.0	▲ 7.2	13.3	6.3	▲19.9	15.1
p 9	102.6	0.0	7.7	▲12.7	77.3	▲10.0	×	27.0	8.4	▲ 4.8	0.3	0.1	▲17.4	11.5
22年9月の指数(季調済)	102.6	－	－	65.4	123.9	97.4	×	100.0	49.7	83.2	91.3	75.0	76.7	92.8

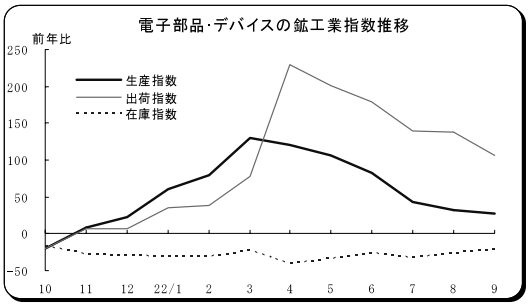
※pは速報値、ｒは修正値　　※平成21年１月から平成22年３月まで年間補正あり。

生　　産

【電子部品・デバイス】

～生産指数は11ヶ月連続で上昇～

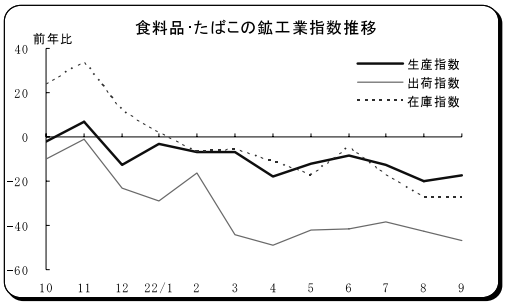
電子部品・デバイスの**生産指数**（原指数、9月）は、半導体素子（発光ダイオードなど）等で低下したが、液晶素子（中・小型液晶素子など）等で上昇し、105.7（前年比＋27.0％）と11ヶ月連続で前年を上回った。**出荷指数**（原指数）も、155.1（同＋106.5％）と11ヶ月連続で前年を上回り、**在庫指数**（原指数）は、58.0（同▲22.0％）と14ヶ月連続で前年を下回った。



【食料品・たばこ】

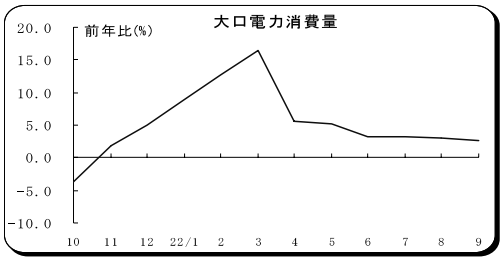
～生産指数は10ヶ月連続で低下～

食料品・たばこの**生産指数**（原指数、9月）は、その他食料品（しいたけ菌など）や冷凍水産食品等で低下し、74.9（前年比▲17.4％）と10ヶ月連続で前年を下回った。**出荷指数**（原指数）も、38.5（同▲47.0％）と15ヶ月連続で前年を下回り、**在庫指数**（原指数）は、73.3（同▲27.4％）と8ヶ月連続で前年を下回った。



【大口電力消費量】11ヶ月連続で増加

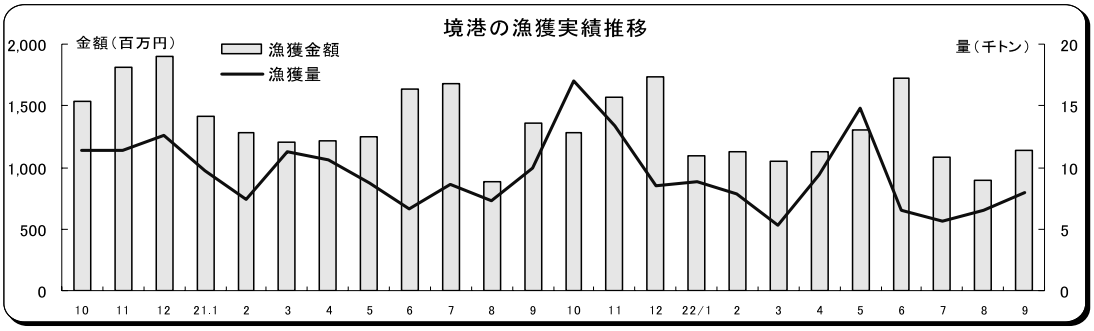
9月の大口電力使用量は、パルプ・紙（前年比▲23.5％）等で減少したが、主力の機械（同＋4.3％）や鉄鋼（同＋17.8％）等で増加したことから、全体では同＋2.7％と11ヶ月連続で前年を上回った。



【水産業】漁獲量、漁獲金額とも減少

境港の9月の漁獲量は7,903トン（前年比▲20.6％）と4ヶ月連続で前年を下回り、漁獲金額も11億35百万円（同▲16.5％）と2ヶ月ぶりに前年を下回った。

水揚げを魚種別にみると、主力のアジは1,717トン（同▲62.4％）と6ヶ月連続で、サバも289トン（同▲13.5％）と3ヶ月連続で前年を下回った。ベニズワイガニは634トン（同▲19.6％）、ウルメイワシは5トン（同▲99.3％）と2ヶ月ぶりに、イカは2トン（同▲33.3％）と3ヶ月ぶりに前年を下回った。マイワシと片口イワシは、前年と同様に漁獲がなく、その他は5,257トン（同4.0倍）と4ヶ月連続の増加だった。



建　　設

【公共工事】　請負金額、件数ともに減少

9月の県内の公共工事の受注（西日本建設業保証鳥取支店の保証取扱）は、請負金額が66億76百万円（前年比▲45.9%）と、3ヶ月連続で前年を下回り、件数も216件（同▲34.7%）と5ヶ月連続で前年を下回った。

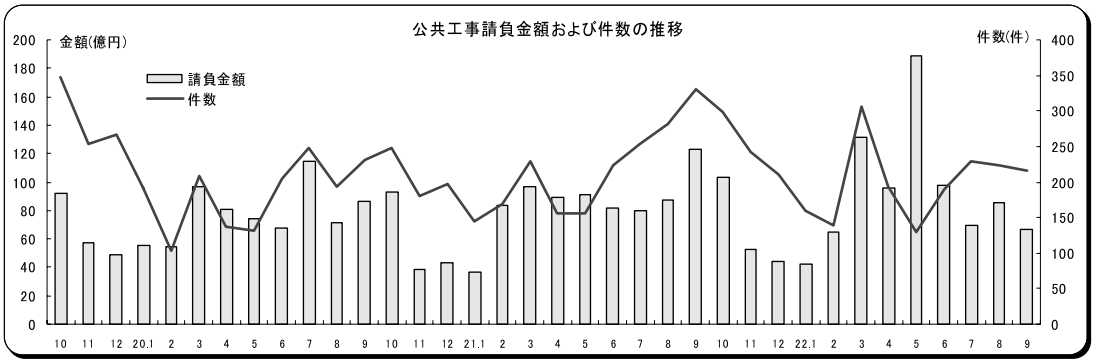
請負金額を発注者別にみると、市町村（同＋59.7%）と独立行政法人等（同全増）は前年を上回り、国（同▲77.9%）と県（同▲50.0%）は前年を下回った。

大型工事は2件のみで、米子市の内浜処理場自家発電設備改築工事（米子市、2億59百万円）他だった。

公共工事請負金額（平成22年４月～平成22年９月累計）（単位＝億円、%）

発注者別		前年同期比	地区別		前年同期比	工種別		前年同期比
国	213.0	14.2	東部	287.3	35.8	土木	402.2	2.7
独立行政法人等	2.6	▲85.9	八頭	70.9	17.5	建築	109.6	33.4
鳥取県	209.5	▲ 8.6	中部	77.5	▲12.4	電気	44.3	52.1
市町村	159.7	45.7	西部	143.1	▲12.8	管	20.2	19.4
その他	18.4	124.0	日野	24.4	▲11.7	測・調・設	15.2	▲40.5
合計	603.2	9.3				その他	11.7	72.3

資料＝西日本建設業保証㈱鳥取支店の「公共工事動向」



【住宅着工】　総数が3ヶ月連続で増加

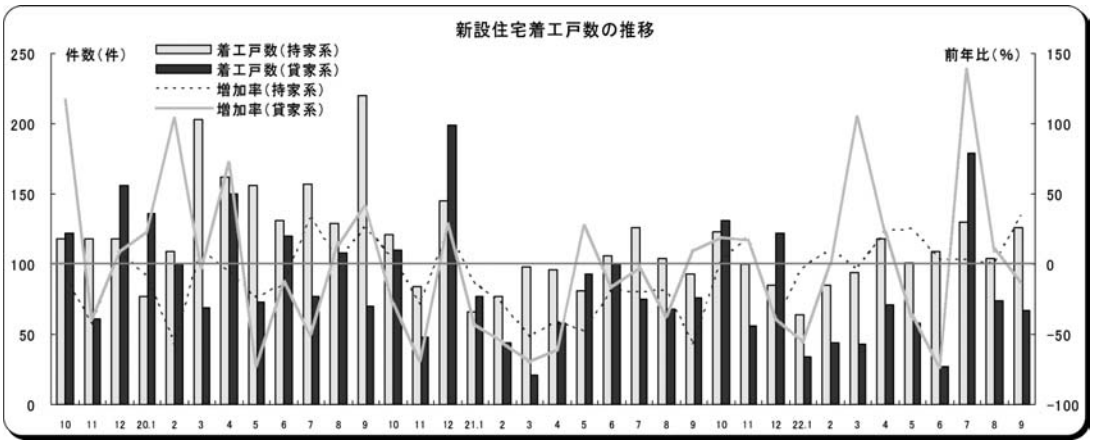
9月の県内の新設住宅着工戸数は、総数が193戸（前年比＋14.2%）と3ヶ月連続で前年を上回った。

用途別では、持家が121戸（同＋31.5%）と8ヶ月連続で前年を上回り、分譲住宅は5戸（同5倍）と3ヶ月ぶりに前年を上回った。貸家（給与住宅を含む）は、67戸（同▲11.8%）と3ヶ月ぶりに前年を下回った。

地区別では、貸家が減少した米子市は総数が前年を下回ったが、他市及び郡部は前年を上回る結果となった。

地区別新設住宅着工戸数（平成22年９月）　（単位＝戸、%）

	総数	前年同月比	持家	前年同月比	分譲住宅	前年同月比	貸家	前年同月比
合計	193	14.2	121	31.5	5	400.0	67	▲11.8
鳥取市	57	5.6	55	77.4	2	100.0	0	全減
米子市	46	▲ 22.0	30	30.4	2	全増	14	▲61.1
倉吉市	32	23.1	11	37.5	1	全増	20	11.1
境港市	31	520.0	11	120.0	0	－	20	全増
郡部	27	8.0	14	▲ 44.0	0	－	13	全増



消　　費

【百貨店売上】　30ヶ月連続で減少

9月の県内3百貨店の売上高は、13億66百万円（前年比▲6.1%）と30ヶ月連続で前年を下回った。

品目別では、サービス他（同＋40.7%）が2ヶ月連続で前年を上回ったが、主力の衣料品（同▲10.1%）は30ヶ月連続、身回品（同▲2.3%）は8ヶ月連続、雑貨（同▲3.8%）は3ヶ月連続、食料品（同▲2.2%）は10ヶ月連続で前年を下回り、家庭用品（同▲12.7%）は2ヶ月ぶりに、食堂・喫茶（同▲3.7%）は3ヶ月ぶりに減少に転じた。

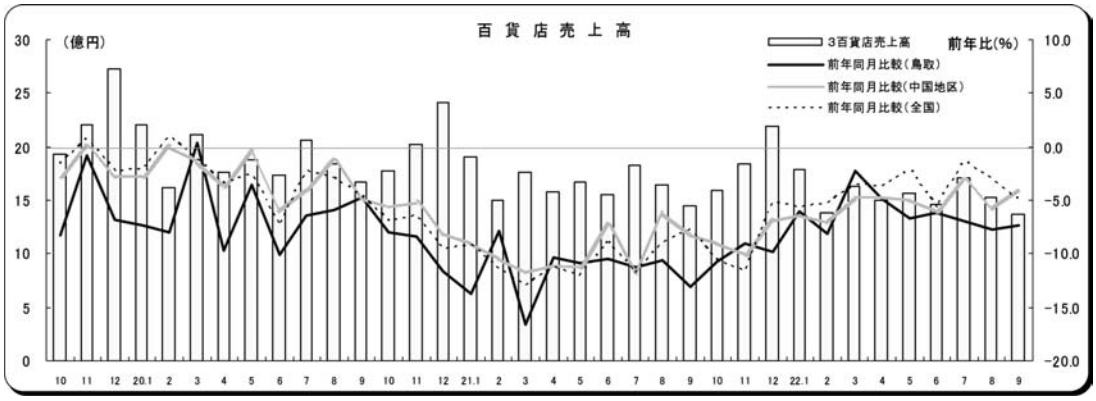
全国の売上高は前年比▲5.0%と31ヶ月連続で、中国地区も同▲4.0%と39ヶ月連続で前年を下回った。

百貨店売上高

（単位＝百万円、%）

	22年9月	前年同月比
合計	1,366	▲ 6.1
衣料品	589	▲10.1
身回品	115	▲ 2.3
雑貨	208	▲ 3.8
家庭用品	88	▲12.7
食料品	297	▲ 2.2
食堂・喫茶	37	▲3.7
サービス他	32	40.7

注：単位未満四捨五入



【自動車販売】　15ヶ月連続で増加

9月の新車販売台数（軽自動車を含む）は、2,543台（前年比＋3.6%）と15ヶ月連続で前年を上回った。

車種別にみると、乗用車が1,070台（同▲12.7%）と16ヶ月ぶりに前年を下回った。内訳は、普通車が498台（同▲2.5%）、小型車が572台（同▲19.9%）と、ともに16ヶ月ぶりに前年を下回った。軽自動車は1,342台（同＋19.1%）と10ヶ月連続で、貨物車等も131台（同＋32.3%）と2ヶ月連続で前年を上回った。バスは0台（同全減）と3ヶ月連続で前年を下回った。

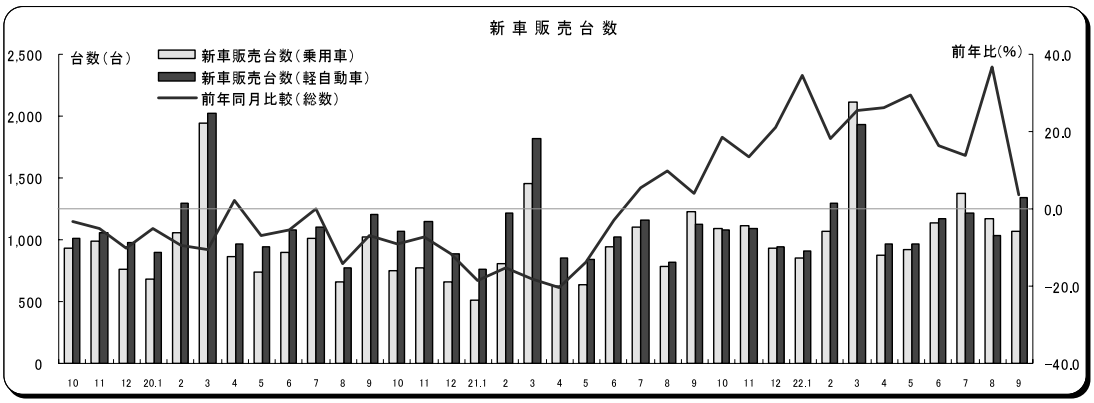
また、中古車は378台（同＋8.3%）と2ヶ月連続で前年を上回った。

自動車販売台数

（単位＝台、%）

	22年9月	前年同月比
新車合計	2,543	3.6
乗用車	1,070	▲ 12.7
普通車	498	▲ 2.5
小型車	572	▲ 19.9
貨物車等	131	32.3
バス	0	全減
軽自動車	1,342	19.1
中古登録車	378	8.3

資料＝ 鳥取県自動車販売店協会



雇　　用

～有効求人倍率は4ヶ月連続で0.6倍台～

9月の県内の職業紹介状況をみると、新規求人数は3,490人（前年比＋7.2％）と2ヶ月連続で前年を上回り、新規求職者数は3,139人（同▲6.9％）と10ヶ月連続で前年を下回った。

新規求人倍率（季節調整値）は1.02倍と前月（1.15倍）を0.13ポイント下回ったが、4ヶ月連続で1倍台を、有効求人倍率（季節調整値）は0.62倍と前月（0.66倍）を0.04ポイント下回ったが、4ヶ月連続で0.6倍台を維持している。

新規求人数の一般は2,098人（前年比＋120人＋6.1％）で、業種別ではその他サービス業（同▲106人▲30.1％）や製造業（同▲29人▲9.9％）等で減少したが、医療・福祉（同＋146人＋52.9％）や宿泊・飲食サービス業（同＋57人＋69.5％）、卸・小売業（同＋42人＋15.1％）等で増加した。パートは情報通信業（同▲52人▲77.6％）や製造業（同▲40人▲23.1％）等で減少したが、宿泊・飲食サービス業（同＋53人16.5％）や卸・小売業（同＋34人＋12.9％）等で増加し、1,392人（同＋114人＋8.9％）だった。

雇用保険受給者実人員は3,398人（前年比▲29.9％）と10ヶ月連続で前年を下回った。雇用調整助成金計画届受理状況（9月、休業対象）は237事業所、4,996人（前月比＋48.2％）となった。

企 業 倒 産

～倒産件数は横ばい、負債総額は減少～

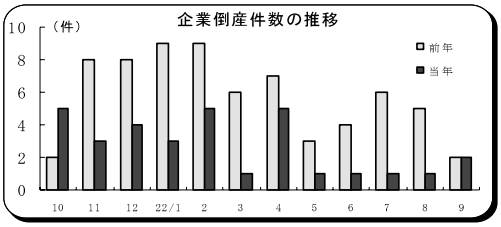
9月の県内企業の倒産（東京商工リサーチ鳥取・米子支店調、負債総額1千万円以上）は、件数が2件（前年比±0.0％）と横ばい、負債総額は117百万円（同▲26.9％）と3ヶ月連続で前年を下回った。

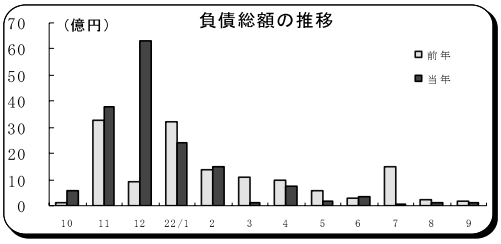
前月との比較では、件数は1件（前月比＋100.0％）、負債総額は17百万円（同＋17.0％）増加した。

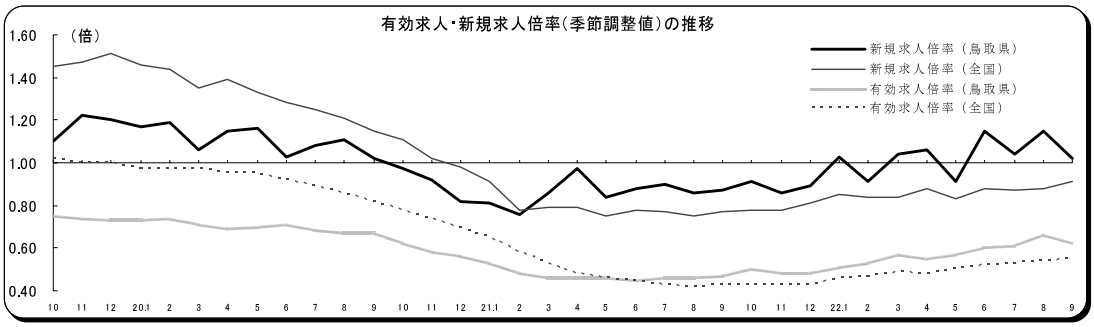
9月の企業倒産　（金額単位＝百万円）

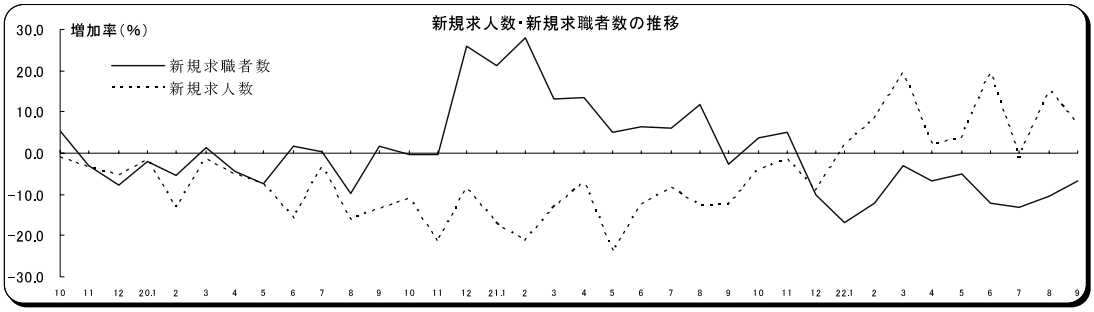
業　　種	所在地	負債額	倒産原因
小　売　業	倉吉市	100	他社倒産の余波
サ ー ビ ス 業	倉吉市	17	他社倒産の余波

資料=㈱東京商工リサーチ鳥取・米子支店









鳥取県の地域振興策

～食と観光を結ぶ鳥取県の観光ビジネス～

鳥取県は中国地方の北東部に位置し、東西約120km、南北約20～50kmと東西に長い形状で、中国地方最高峰の大山や第二の高峰である氷ノ山を有し、全面積の86％を山地が占める平野の少ない県である。河川はいずれも中国山地に源を発し、短く急流。平野は千代川、天神川、日野川等の下流域に発達し、主に沖積平野と砂丘により形成されている。気候は比較的温暖で、春から秋は好天が多く、冬は降雪もあり、四季の移り変わりが鮮やかである。台風などの自然災害も少なく、気候条件に恵まれている。

全国的に有名な鳥取砂丘をはじめ、県内10ヵ所の温泉地など観光地が多い。また、二十世紀梨やカニ、マグロ等の農産物・水産物も豊富で、食料品関連産業は電気機械関連産業とともに県の主要産業となっている。

このように、恵まれた自然と豊かな環境資源が鳥取県の大きな魅力である。

1．鳥取県の「食」に関する取り組み

鳥取県は、農家人口割合（人口総数に占める割合）が全国3位と豊かな自然環境を活かし、全国有数の農林水産業が盛んな県である。また、日本海に面しており、豊かな水産資源を活用した水産業も発達している。良質で豊富な水にも恵まれ、県西部は「水の郷」としても有名だ。水源の大部分が良質な地下水であるため、浄水施設を持たない全国でも数少ない水道事業体も存在する。そして、その水は「よなごの水」として全国販売されている。また、大山周辺には大手企業のミネラルウォーター工場が立地されており、サントリーは全国50ヵ所の水を比較して立地を決定し、「サントリー天然水（奥大山）」を製造している。

図表１　鳥取県の主な特産品

鳥取県の特産品	特　　徴
カニ	鳥取県の境港は水揚げ日本一。ベニズワイガニや松葉ガニ（オス）が有名。県民は松葉ガニのメス（親ガニ）を好んで食す。
マグロ	鳥取県の境港は巻き網漁による生クロマグロの水揚げ量が5年連続日本一。マグロ市場見学も好評。
白イカ	夏の山陰を代表する、コリコリとした歯ごたえととろけるような甘みを持つイカ。
二十世紀梨	和ナシの王様。二十世紀梨の生産量が全国一で、台湾やアメリカなど海外にも輸出されている。「新甘泉（しんかんせん）」や「なつひめ」といった鳥取開発の有望品種も出荷。
スイカ	全国的に知名度の高い「大栄スイカ」やスイカ本来の味を追求した「極実（ごくみ）スイカ」が有名。
ながいも	「砂丘ながいも」は、県中部・砂丘地の名産。「ねばりっこ」というイチョウイモとながいもの交雑種も有名。粘りが強く、鳥取県だけの限定品。
らっきょう	砂丘地ならではのきめ細かい砂地で栽培される「砂丘らっきょう」は県を代表する人気ブランド。実の部分が大きく、歯応えが自慢。10月下旬頃に開花し、ラズベリーのような美しい花畑を楽しめる。
白ネギ	しっかりとした甘さで、市場関係者や料理人からも高い評価を受けている。

（１）「食のみやこ鳥取県」

本県及び本県産品は東京などの大都市部ではイメージが希薄で、認知度が低い。そこで、恵まれた自然環境で育てられた安全・安心の本県食材を「食のみやこ鳥取県」の産品として市場に訴える取り組みが進められてきている。

「食のみやこ鳥取県」とは、食が健康や安全、観光等と結びついてひとつの文化として定着するよう「食」にこだわった施策の展開を図っていくことである。鳥取県内の工場で製造され、原則として食品添加物を使用していない加工品で、県内の原材料、伝統的製造法、新技術のいずれかに該当すると「鳥取県ふるさと認証食品」として県に認められ、各種イベントで県内外の消費者に広くPRされている。東京・新橋には「食のみやこ鳥取プラザ」という鳥取県東京アンテナショップが設けられ、今年8月で開店2周年を迎えた。大

阪府豊中市の千里大丸プラザにおいては、定期的に鳥取県産品のフェアの開催も行っている。

（２）食品加工産業の拡大・差別化・高付加価値化

鳥取県は、食品関連産業の製造品出荷額及び従業者数が本県製造業の約２割を占めており、食品加工業の拡大・差別化・高付加価値化は重要課題である。

近年では、食品を新鮮かつ良好な状態に維持できる氷温技術や水産資源の持つ機能性を活用した新食品等の開発などの取り組みも進められている。

（３）鳥取県のご当地グルメ

木綿豆腐と白身魚を7：3の割合で合わせて蒸す「とうふちくわ」や牛骨ダシ特有の「コクがあるのにすっきり」したスープが特徴で60年以上の歴史を持つ「牛骨ラーメン」など、最近は県のご当地グルメも脚光を浴びつつある。「とうふちくわ」は、全国各地のB級グルメの祭典「B-1グランプリ」第1回大会から参戦し、最近ではネギやカレーなどの新しい味も登場している。「牛骨ラーメン」の専門店「香味徳（かみとく）」は東京・銀座に出店したばかりだ。

２．鳥取県の観光ビジネス

（１）鳥取県の戦略的推進分野

鳥取県は、特に優先的、重点的に取り組むべき戦略分野として8つの戦略的推進分野を定めており、「観光ビジネス」はそのひとつである。本県の経済や観光交流、ようこそ鳥取県運動を通じて消費拡大、国際ビジネス促進等を図り、外国人観光客等の増加や国際ビジネスの活性化などを推進し、GDP及び雇用の増加を目標に掲げている。

（２）鳥取県の観光地

鳥取県の大きな魅力は、恵まれた自然と豊かな環境資源であり、県内には自然の恩恵を受けた様々な観光地が存在する。最近では、「鳥取AiRMaP（エアマップ）」というiPhone向けのアプリケーションで県内の観光情報等を発信したり、楽天市場と共同で観光情報を公開したりするなど、新しい取り組みも行っている。

図表２　鳥取県の主な観光地

観光地名	特　　徴
鳥取砂丘	千代川河口に発達した東西16km、南北2kmに及ぶ雄大な海岸砂丘。著しく起伏に富み、国の天然記念物に指定されている。
浦富海岸	山陰海岸国立公園に指定された景勝地。文豪・島崎藤村が「神秘の霊境」と称したほどの美しい海岸。遊覧船による島めぐりも人気。
三徳山	山岳仏教の霊場として栄えた山。投入堂は国宝に指定されている。
三朝温泉	県内10ヵ所に沸く温泉のひとつ。高濃度のラドン含有量を誇る世界屈指の放射能泉。ラドンとはラジウムが分解されて生じる弱い放射線のことで、身体に浴びると新陳代謝が活発になり、免疫力や自然治癒力が高まる効果がある。
大山	中国地方の最高峰。夏は登山、冬はウインタースポーツが楽しめる。西日本最大級のブナ林が広がり、山頂付近には日本最大の面積を誇るダイセンキャラボク純林が群生し、特別天然記念物として保護されている。「大神山（おおがみやま）神社奥宮」「大山寺」のある大山は、古来から神の住む山と崇められると同時に、山岳仏教の修験場としても栄え、「御幸」「大山夏山開き祭」に今もその名残を強くかいま見ることができる。

（３）まんがによる地域振興

鳥取県は、国際的な認知度向上や海外からの観光客誘致を図るため、「まんが王国とっとり」という、まんがを切り口としたPR事業に取り組んでいる。平成24年には「第13回国際マンガサミット」の誘致に成功した。まんがで地域振興を目指す市や町が県内各地に存在し、例えば県中部の北栄町は地元出身の漫画家である青山剛昌氏の原作をテーマに『日本で唯一「名探偵コナン」に会えるまち』として「コナンの里づくり」を進めている。

【まんがによる地域振興の成功例】

県西端の境港市は、漫画家水木しげる氏の故郷であり、妖怪ブロンズ像が立ち並ぶ「水木しげるロード」で町おこしに成功した全国的にも珍しい「妖怪のまち」だ。NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女

房」の効果もあり、人口約3万6千人の市に多い時には1日7万人もの観光客が押し寄せる。かつて犬猫通りと呼ばれた商店街周辺は、鳥取県で最も多くの入込客を記録し、全国でも有数の観光スポットとなった。今年11月には、映画「ゲゲゲの女房」の公開も予定されており、さらなる集客も見込めそうだ。

しかし、「水木しげるロード」は「妖怪大戦争」などの映画公開やアニメ・ドラマ放送のブームだけでここまで人気の観光地となった訳ではない。妖怪ブロンズ像や妖怪街灯のスポンサーを公募するという取り組みや「妖怪ジャズフェスティバル」、「世界妖怪会議」、「妖怪そっくりコンテスト」、「妖怪検定」など様々なイベントを行い、JR境港線の“妖怪路線化”や鬼太郎フェリーの就航、妖怪倉庫、鬼太郎タクシーなど地元企業の協力も素晴らしい。美保基地開庁50周年を記念して自衛隊機に鬼太郎のキャラクターが期間限定で塗装され、米子空港の愛称が「米子鬼太郎空港」に決定するなど、官民を挙げて盛り上げている。

関係者が『走り続けるテーマパーク』と呼ぶこのロードは、一過性のブームだけに依存せず、それをうまく利用し、自らも成長を続けてきた。「水木しげるロード」の成功は、市民や地元企業、商工会議所、境港市役所職員等が力を合わせて勝ち取ったものだ。彼らのひたむきな活動がなければ、このロードが日の目を見ることはなかっただろう。「水木しげるロード」という鳥取県を代表する観光地に今後も目が離せない。

図表３　水木しげるロード年間入込客数　（単位：人）

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
入込客数	603,414	614,555	854,474	779,364	855,207
	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年1月～9月22日
入込客数	926,909	1,478,330	1,721,725	1,574,710	250万人突破

（４）今後が期待される観光ビジネス

①鳥取県が韓国ドラマのロケ地に

韓国で平均視聴率30％以上を記録した人気テレビドラマ「アイリス」のスピンオフ作品となる「アテナ：戦争の女神」（韓国で今冬放送予定）のロケ地に鳥取県が選ばれ、9月下旬に県内約20ヵ所の撮影が終了した。「アイリス」のロケ地となった秋田県では韓国人観光客が急増したため、鳥取県のロケへの関心は非常に高い。秋田－ソウル便の搭乗率はピーク時には80％台で推移しており、鳥取県も米子－ソウル便の利用増などで12億円の経済効果を見込んでいる。

今回のロケ地決定は、韓国やアジア圏の観光客誘致とともに、国宝に指定されている「三徳山投入堂」といった県外にあまり知られていない名所のPRにも一役買いそうだ。

②山陰海岸の世界ジオパークネットワーク（GGN）加盟決定

ジオパークとは、地球活動の遺産を主な見所とする自然の中の公園で、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が支援しているが、世界遺産が保護を主目的とするのに対し、ジオパークは保護だけでなく、地球科学・環境問題に関する教育やジオツーリズムなどを通じた持続可能な経済発展等を目的とする。中でも、世界ジオパークはGGNの基準を満たした地域が加盟を認められ、日本では糸魚川（新潟県）などが認定されている。山陰海岸は10月4日に日本4例目となる世界ジオパークへの加盟が決定したばかり。山陰海岸には、鳥取県の東端から白兎海岸までが含まれており、約2,500年前の日本海形成に関わる多様な火成岩類など、多くの貴重な地形・地質遺産が観察できる。世界ジオパークの知名度向上により、国内だけでなく、海外からの観光客誘致に期待が高まる。

３．鳥取県を取り巻く交通網

鳥取県は新幹線が未開通で、空の便は米子－ソウル間、鳥取－羽田間、米子－羽田間、米

子－名古屋間（※H23.1.4廃止予定）のみ。交通網の未発達が観光客誘致の懸念となっていたが、平成22年3月に中国横断自動車道姫路鳥取線（鳥取自動車道）の県内全区間が開通し、平成24年度には全区間が開通される予定だ。これまで3時間20分かかっていた鳥取－大阪間は、全区間開通後は2時間30分程度に短縮される。また、平成21年6月からは、韓国のDBSクルーズフェリーにより境港と韓国、ロシアを結ぶ定期貨客船の運航が開始され、年間3万人の外国人がこの貨客船で境港に訪れるようになり、同年12月には米子鬼太郎空港の滑走路が2,500mに延長され、大型機の離着陸も可能となった。

日経エンターテイメント8月号の「今後ブレイクしそうな県」ランキングでは、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の長崎県、「アイリス」の秋田県を抑えて鳥取県が第1位に輝いた。交通網の発達とブームを追い風に、自慢の食と観光地、そしてそれらを結び付ける戦略と取り組みで、持続ある鳥取県の観光ビジネスの発展を期待したい。

国　内　経　済　指　標

	実質国内総生産（季調済）	機械受注額（船舶・電力を除く民需）	建設工事受注（50社）	所定外労働時間（製造業）	全国百貨店販売額	貿易通関額 輸出	貿易通関額 輸入	外国為替相場 米ドル直物終値	基準割引率および基準貸付金利 実施日	基準割引率および基準貸付金利 利率	長期プライムレート 実施日	長期プライムレート 利率
	年度比前期比	年度比	年度比	前年比	前年比	億	円	円/ドル	年月日	年%	年月日	年%
18　年	2.3	2.0	3.3	3.5	▲ 0.7	752,462	673,443	118.92	3. 7. 1	5.50	21. 1. 9	2.25
19　年	1.8	▲ 3.0	1.6	0.9	▲ 0.7	839,314	731,359	113.12	3.11.14	5.00	21. 4.10	2.30
20　年	▲3.8	▲14.1	▲12.3	▲ 6.3	▲ 4.2	810,181	789,548	90.28	3.12.30	4.50	21. 5. 8	2.10
21　年	▲1.8	▲20.6	▲14.2	▲32.6	▲10.1	541,706	514,994	92.13	4. 4. 1	3.75	21. 7.10	1.90
9		▲22.0	▲14.0	▲24.3	▲ 7.8	51,094	45,918	89.76	4. 7.27	3.25	21. 8.11	1.95
10	(10-12)	▲21.0	▲40.1	▲19.7	▲10.6	53,083	45,083	91.11	5. 2. 4	2.50	21. 9.10	1.80
11	1.0	▲20.5	▲11.6	▲ 7.8	▲11.7	49,882	46,229	86.15	5. 9.21	1.75	21.10. 9	1.70
12		▲ 1.5	0.6	12.5	▲ 5.1	54,117	48,691	92.13	7. 4.14	1.00	21.11.10	1.85
22. 1	(1-3)	▲ 1.1	15.7	33.3	▲ 5.7	49,016	48,406	90.19	7. 9. 8	0.50	21.12.10	1.65
2	1.6	▲ 7.1	▲20.3	57.9	▲ 5.3	51,279	44,806	89.34	13. 1. 4	0.50	22. 3.10	1.60
3		1.2	42.3	61.6	▲ 3.6	60,036	50,538	93.27	13. 2.13	0.35	22. 4. 9	1.65
4	(4-6)	9.4	▲25.0	55.6	▲ 3.7	58,879	51,474	94.18	13. 3. 1	0.25	22. 5.11	1.60
5	0.4	4.3	9.2	44.0	▲ 2.1	53,098	49,938	91.49	13. 9.19	0.10	22. 6.10	1.45
6		▲ 2.2	▲10.2	43.3	▲ 5.7	58,668	51,846	88.66	18. 7.14	0.40	22. 8.10	1.40
7	(7-9)	15.9	▲ 0.7	35.6	▲ 1.3	59,827	51,835	86.37	19. 2.21	0.75	22. 9.10	1.45
8	p 0.9	24.1	0.0	28.8	▲ 3.0	52,079	r 51,239	84.24	20.10.31	0.50	22.10. 8	1.30
9		4.2	▲15.0	20.4	▲ 5.0	58,409	p 50,498	83.32	20.12.19	0.30	22.11.10	1.40
調査機関	内閣府		国土交通省	厚生労働省	経済産業省	財務省		日本銀行			みずほコーポレート銀行	

pは速報値、ｒは修正値　　※週及改定有　　日本銀行の変更に伴うもの

鳥　取　県　経　済　指　標　(1)

	推計人口（注１）	推計世帯数（注１）	景気動向指数 先行指数	景気動向指数 一致指数	景気動向指数 遅行指数	電力消費量 総数	電力消費量 前年比	電力消費量 大口電力	電力消費量 前年比	公共工事保証実績 件数	公共工事保証実績 請負金額	公共工事保証実績 前年比
単　位	人	世　帯	%			百万kWh	%	百万kWh	%	件	百万円	%
18　年	603,987	212,177				3,912.5	1.4	917.9	▲ 0.2	3,012	109,614	▲ 8.2
19　年	599,830	213,383				3,894.2	▲ 0.5	939.9	2.4	2,646	90,600	▲17.3
20　年	594,915	213,930				3,952.3	1.5	979.9	4.3	2,274	87,650	▲ 3.3
21　年	591,150	215,050				3,802.4	▲ 3.8	907.8	▲ 7.4	2,759	98,950	11.5
9	591,406	215,033	75.0	62.5	33.3	320.8	▲ 6.0	81.3	▲ 5.7	331	12,332	42.2
10	591,150	215,050	62.5	87.5	50.0	299.5	▲ 3.4	81.7	▲ 3.7	299	10,318	10.5
11	591,156	215,183	62.5	87.5	50.0	299.3	▲ 1.3	77.3	1.8	243	5,221	36.6
12	591,025	215,325	68.8	62.5	66.7	316.5	2.2	76.6	5.0	210	4,417	3.3
22. 1	590,713	215,289	68.8	62.5	66.7	370.5	4.2	75.5	8.9	160	4,201	15.2
2	590,430	215,304	75.0	50.0	50.0	344.7	0.0	71.9	12.6	139	6,459	▲22.7
3	590,130	215,284	75.0	100.0	66.7	328.4	▲ 0.2	80.0	16.5	307	13,119	35.1
4	588,377	214,907	87.5	75.0	33.3	334.3	6.8	74.5	5.5	193	9,565	6.9
5	588,540	215,825	56.3	87.5	50.0	294.8	4.9	73.5	5.1	129	18,830	107.2
6	588,308	215,877	50.0	87.5	50.0	289.2	2.2	80.5	3.3	189	9,751	19.2
7	588,108	215,996	50.0	75.0	60.0	326.1	2.0	88.9	3.2	230	6,910	▲13.3
8	587,981	216,144	75.0	37.5	50.0	377.8	10.8	86.9	3.1	224	8,587	▲ 1.2
9	587,979	216,256				380.1	18.5	83.5	2.7	216	6,676	▲45.9
調査機関	鳥取県統計課					中国電力㈱鳥取支店				西日本建設業保証㈱		

注１：年別は10月１日現在、月別は１日現在。

鳥　取　県　経　済　指　標　(2)

	出荷指数（注１）	在庫指数（注１）	新設住宅着工 総数	前年比	持家（分譲を含む）	前年比	貸家（給与を含む）	前年比	百貨店売上高 県内３百貨店	前年比	スーパー売上高（注２） 県内13社	前年比（既存店）
単　位	前年比		戸	%	戸	%	戸	%	百万円	%	百万円	%
18　年	2.4	6.4	3,908	▲ 6.2	2,231	1.7	1,677	▲15.1	25,813	▲ 1.6	40,648	▲ 1.7
19　年	▲ 6.1	▲ 6.8	3,205	▲18.0	1,837	▲17.7	1,368	▲18.4	24,806	▲ 3.9	41,239	1.5
20　年	▲ 6.0	6.6	2,954	▲ 7.8	1,694	▲ 7.8	1,260	▲ 7.9	23,029	▲ 7.2	39,883	▲ 0.7
21　年	▲11.6	▲ 5.4	2,076	▲29.7	1,155	▲31.8	921	▲26.9	20,397	▲11.4	41,602	▲ 5.5
9	▲ 6.7	▲ 2.9	169	▲41.7	93	▲57.7	76	8.6	1,454	▲12.7	3,539	4.0
10	▲ 0.5	1.9	254	10.0	123	1.7	131	19.1	1,592	▲10.3	3,587	2.5
11	11.4	4.3	156	18.2	100	19.0	56	16.7	1,845	▲ 8.8	3,455	▲13.6
12	1.7	▲ 5.4	207	▲39.8	85	▲41.4	122	▲38.7	2,187	▲ 9.6	4,362	▲ 2.2
22.　1	12.5	▲ 2.2	98	▲31.5	64	▲ 3.0	34	▲55.8	1,789	▲ 5.9	4,214	▲ 5.0
2	21.2	▲ 5.5	129	6.6	85	10.4	44	0.0	1,383	▲ 7.8	3,312	▲ 1.1
3	18.2	▲ 6.8	137	15.1	94	▲ 4.1	43	104.8	1,629	▲ 7.3	3,316	▲ 6.0
4	31.2	▲15.2	189	22.7	118	22.9	71	22.4	1,503	▲ 4.5	3,679	▲ 3.6
5	39.8	▲14.7	159	▲ 8.6	101	24.7	58	▲37.6	1,568	▲ 6.3	3,560	▲ 7.5
6	35.4	▲ 8.4	136	▲34.0	109	2.8	27	▲73.0	1,466	▲ 5.8	3,551	▲ 0.3
7	29.1	▲ 6.0	309	53.7	130	3.2	179	138.7	1,708	▲ 6.6	3,643	▲ 2.6
8	32.8	▲ 9.8	178	3.5	104	0.0	74	8.8	1,528	▲ 7.3	r 4,109	r 0.5
9	19.0	▲10.5	193	14.2	126	35.5	67	▲11.8	1,366	▲ 6.1	p 3,521	p 0.9
調査機関	鳥取県統計課		国土交通省						当行		鳥取県統計課	

注１：鳥取県鉱工業指数

注２：スーパー売上高のｐ（速報値）は中国経済産業局調べ

鳥　取　県　経　済　指　標　(3)

	新車販売 乗用車	前年比	軽自動車	前年比	中古車販売 新規登録	前年比	消費者物価指数(注3) 鳥取市	前年比	求人倍率 新規	有効	常用雇用指数 事業所規模30人以上	前年比
単　位	台	%	台	%	台	%	17年＝100	%	倍（季節調整済）		17年＝100	%
18　年	12,927	▲ 8.7	15,513	3.3	4,861	▲ 3.7	99.5	▲ 0.5	1.21	0.79	99.2	▲ 0.8
19　年	11,923	▲ 7.8	14,492	▲ 6.6	4,393	▲ 9.6	99.3	▲ 0.2	1.19	0.75	95.6	▲ 3.6
20　年	11,091	▲ 7.0	13,613	▲ 6.1	3,859	▲12.2	101.2	1.9	1.07	0.67	96.5	0.9
21　年	11,220	1.5	12,727	▲ 4.9	4,441	15.1	100.1	▲ 1.1	0.86	0.47	95.9	▲ 0.6
9	1,225	19.7	1,127	▲ 6.2	349	21.6	100.0	▲ 2.2	0.87	0.47	95.8	▲ 1.2
10	1,087	44.4	1,081	1.5	367	19.5	100.0	▲ 2.2	0.91	0.50	95.9	▲ 0.9
11	1,110	44.0	1,088	▲ 5.2	283	▲ 1.4	99.9	▲ 1.5	0.86	0.48	96.2	▲ 0.5
12	936	42.5	945	7.0	357	24.4	99.7	▲ 0.9	0.89	0.48	96.0	▲ 0.4
22.　1	849	66.1	914	19.9	224	1.4	99.2	▲ 1.0	1.03	0.51	92.5	▲ 4.3
2	1,073	33.8	1,290	6.0	338	▲ 3.2	98.8	▲ 1.5	0.91	0.53	92.2	▲ 3.8
3	2,119	46.2	1,929	6.3	489	▲13.5	98.9	▲ 1.5	1.04	0.57	91.3	▲ 2.6
4	872	38.9	964	13.0	458	▲ 8.6	98.5	▲ 1.8	1.06	0.55	91.4	▲ 4.8
5	922	44.5	967	14.8	329	▲ 6.3	98.7	▲ 1.5	0.91	0.57	91.1	▲ 5.4
6	1,137	19.9	1,167	14.3	430	12.6	98.8	▲ 1.3	1.15	0.60	91.0	▲ 5.4
7	1,378	24.6	1,213	4.9	349	▲16.3	98.5	▲ 1.5	1.04	0.61	91.1	▲ 5.0
8	1,169	49.9	1,031	25.7	313	4.7	98.4	▲ 1.5	1.15	0.66	91.2	▲ 4.8
9	1,070	▲12.7	1,342	19.1	378	8.3	98.6	▲ 1.4	1.02	0.62		
調査機関	鳥取県自動車販売店協会						鳥取県統計課		鳥取労働局		鳥取県統計課	

注3：生鮮食料品を除く総合

鳥　取　県　経　済　指　標　(4)

	勤労者世帯消費支出		常用労働者１人平均月間現金給与総額（事業所規模30人以上）		通関実績（境税関支署管内）				境港漁獲実績			
	（注１）	前年比		前年比	輸出	前年比	輸入	前年比	数量	前年比	金額	前年比
単位	円	%	円	%	百万円	%	百万円	%	トン	%	百万円	%
18年	298,936	2.5	307,458	▲ 0.3	57,333	22.2	56,199	19.8	103,147	7.8	19,108	6.4
19年	293,925	▲ 1.7	304,452	▲ 0.4	73,362	28.0	55,576	▲ 1.1	117,176	13.6	21,183	10.9
20年	283,792	▲ 3.4	306,564	▲ 0.3	74,001	0.9	59,509	7.1	107,212	▲ 8.5	20,846	▲ 1.6
21年	288,190	1.5	286,635	▲ 5.2	39,700	▲46.4	32,975	▲44.6	119,072	11.1	16,526	▲20.7
9	248,832	▲ 7.8	243,615	▲ 1.8	3,584	▲37.1	2,758	▲47.2	9,959	32.2	1,359	▲ 0.6
10	270,595	▲ 4.1	241,757	▲ 1.9	4,442	▲28.5	2,822	▲28.8	16,999	49.4	1,283	▲16.6
11	294,438	24.7	252,215	▲ 2.0	4,209	▲ 7.0	3,162	▲ 0.2	13,360	17.8	1,567	▲13.6
12	320,914	11.0	518,214	▲ 6.8	4,176	37.1	2,951	▲11.5	8,553	▲32.2	1,740	▲ 8.4
22. 1	259,105	3.9	240,923	▲ 2.5	4,013	65.0	3,899	33.6	8,835	▲ 8.9	1,094	▲22.9
2	226,098	▲14.2	236,451	▲ 1.3	4,389	117.6	2,401	49.1	7,836	5.8	1,130	▲12.1
3	320,302	7.8	238,741	▲ 1.3	5,297	99.7	3,475	35.7	5,332	▲52.8	1,050	▲13.0
4	299,400	▲ 8.2	250,460	2.5	5,135	68.2	3,766	81.3	9,357	▲11.5	1,132	▲ 7.0
5	304,682	20.7	240,661	1.4	4,538	70.7	3,608	33.8	14,793	70.5	1,301	4.2
6	271,574	▲19.2	366,576	▲ 2.7	4,698	61.6	4,666	45.8	6,559	▲ 1.4	1,729	5.9
7	323,235	8.7	353,509	2.7	5,242	43.5	2,654	▲ 7.6	5,649	▲34.0	1,084	▲35.5
8	309,097	2.6	256,387	1.9	5,009	27.9	3,691	10.4	6,467	▲11.8	894	0.8
9					5,549	54.8	p 3,107	p 12.6	7,903	▲20.6	1,135	▲16.5
調査機関	総務省統計局		鳥取県統計課		境税関支署				㈳境港水産振興協会			

※注１：月平均、農林漁業世帯含む世帯。

鳥　取　県　経　済　指　標　(5)

	鳥取県銀行協会　会員銀行				不渡手形				企業倒産			
	預金	前年比	貸出金	前年比	枚数	前年比	金額	前年比	件数	前年比	負債総額	前年比
単位	億円	%	億円	%	枚	%	百万円	%	件	%	百万円	%
18年	18,470	0.7	11,304	▲ 3.3	659	52.5	407	51.1	67	71.8	27,766	134.5
19年	18,870	2.2	11,259	▲ 0.4	606	▲ 8.0	482	18.5	52	▲22.4	21,034	▲24.8
20年	18,809	▲ 0.3	10,976	▲ 2.5	955	57.6	1,123	133.0	79	51.9	29,159	38.6
21年	19,513	3.7	11,091	1.0	573	▲40.0	661	▲41.1	63	▲20.3	20,064	▲31.2
9	19,240	4.5	11,015	0.5	55	▲43.3	70	▲35.5	2	▲50.0	160	▲57.9
10	19,209	4.8	11,004	0.8	43	▲39.4	33	▲41.0	5	150.0	556	327.7
11	19,251	3.3	10,978	1.0	67	131.0	57	220.7	3	▲62.5	3,789	16.0
12	19,513	3.7	11,091	1.0	9	▲89.9	23	▲67.9	4	▲50.0	6,320	585.5
22. 1	19,315	3.5	11,031	1.0	24	▲60.7	16	▲68.3	3	▲66.7	2,437	▲23.8
2	19,319	3.2	11,105	0.7	18	▲57.1	12	▲80.2	5	▲44.4	1,490	6.3
3	19,510	4.1	11,274	0.7	51	▲45.2	81	▲43.3	1	▲83.3	100	▲90.7
4	19,436	2.5	11,078	1.0	35	▲39.7	62	▲30.7	5	▲28.6	743	▲23.0
5	19,756	2.9	11,189	0.4	35	▲12.5	55	42.4	1	▲66.7	200	▲63.6
6	20,212	2.9	11,135	0.2	27	▲41.3	43	34.9	1	▲75.0	360	16.1
7	20,094	3.5	11,173	0.7	12	▲67.6	9	▲77.5	1	▲83.3	50	▲96.7
8	20,001	2.5	11,154	0.7	46	2.2	31	▲28.2	1	▲80.0	100	▲56.1
9	19,745	2.6	11,168	1.4	9	▲83.6	4	▲94.5	2	±0.0	117	▲26.9
調査機関	鳥取県銀行協会				県内（３市）手形交換所				㈱東京商工リサーチ鳥取支店			

経　済　日　誌

´10年9月

鳥取県内

1日　日韓ロ定期貨客船を利用した貿易を計画するロシア企業家組織連盟「ロシアの柱」が、境港市大正町に境港支部の事務所を開設した。東京、北海道に次いで国内3ヶ所目。日ロ企業間のビジネスマッチングや通関業務を手掛け、ロシア企業の支店も兼ねる。

3日　県は、急速な円高の影響を受けている輸出関連企業への特別融資の取り扱いを始めた。融資枠は20億円で、来年3月末まで市町村や商工団体を窓口に申し込みを受け付ける。

10日　県と山崎製パンは、県有林の森林整備に伴う二酸化炭素の削減量を企業が購入する「カーボンオフセット」の契約を結んだ。県は間伐などで生じる削減量を企業に販売し、同社は県産牛乳や特産の二十世紀梨を加工した商品の収益の一部を購入費に充てる。都道府県と民間企業によるカーボンオフセットの導入は全国で2例目。

10日　韓国ドラマ「アイリス」のスピンオフ作品「アテナ：戦争の女神」のロケ隊約100人が日韓ロ定期貨客船と米子ソウル便で来県し、県内での撮影活動がスタートした。

14日　県は自治体財政健全化法に基づき、県内19市町村の2009年度決算の財務指標（速報値）を公表した。実質公債費比率は、日野町が27.0％と早期健全化基準（25％）を上回ったが、08年度決算比では同町を含む15市町村が軒並み改善した。

21日　県が発表した2010年7月1日時点の県内地価（基準地価、178地点）の調査結果で、全用途の変動率は▲5％と12年連続で下落し、下げ幅は前年よりも0.9ポイント拡大した。

24日　急激な円高対策として、県は定例県議会本会議で、本年度一般会計9月補正予算案に新たに53億5千万円を追加する議案を提出した。公共事業の前倒し、失業者の職場体験を受け入れる企業への支援が柱。グリーン産業企業の県内進出を促すための制度改正などで1,150人の雇用創出を目指す。

30日　通信販売向けコールセンターを展開するツーウェイシステム（大阪市）は、鳥取市の鳥取プロスペリティセンターに来年度100人を採用する雇用計画を発表した。

国内・海外

1日　今夏（6～8月）の平均気温は平年を1.64度上回り、統計を開始した1898年以降最高だったことが気象庁の解析で分かった。

1日　日本自動車販売協会連合会が発表した8月の国内新車販売台数は、前年同月比46.7％増の29万789台で、1968年の統計開始以来、8月としては最大の伸び率となった。

7日　農林水産省が発表した2010年の「農林業センサス」（速報値）によると、農業就業人口は260万人で05年の前回調査に比べて75万人減少した。減少率は22.4％と、1985年以降で過去最大となった。就業人口の平均年齢は65.8歳と2.6歳上昇し、初めて65歳を超えた。

7日　厚生労働省は、2009年の1年間に自殺者が出たことで失われた所得やうつ病を契機とした休業・失業への労災補償などによる経済損失が計約2.7兆円に上るとの推計を発表した。

21日　国土交通省は、2010年7月1日時点の都道府県地価（基準地価）を発表。全国2万1,786地点の98.5％が昨年より下落し、全国平均では住宅地が19年連続のマイナスだった。

22日　日本フランチャイズチェーン協会が発表した主要コンビニ10社の8月の既存店売上高は前年同月比1.0％増加した。猛暑で清涼飲料やアイスクリームの販売が好調だったため、2ヶ月連続で前年実績を上回った。

28日　2009年の民間企業の平均給与が405万9千円と、前年を23万7千円（5.5％）下回り、下落額・率とも過去最高だったことが国税庁の調査で判明。給与がピークだった1997年に比べると61万4千円減った。

29日　日銀が発表した9月の企業短期経済観測調査（短観）は、業況判断指数（DI）が大企業製造業で＋8と、前回の6月調査に比べ7ポイント上昇し、6期連続で改善した。ただ、3ヶ月後の先行きは▲1に悪化。エコカー購入補助金制度の終了や円高が響き、企業経営者の景気減速への懸念が反映された。

30日　財務省は、9月分の外国為替市場での為替介入額が2兆1,249億円だったと発表した。政府は9月15日、約15年ぶりの円高水準を受けて、6年半ぶりの円売りドル買い介入に踏み切っていた。

発行　鳥取銀行ふるさと振興部
くらしと経営相談所
㊀680-8686 鳥取市永楽温泉町171番地
TEL 0857－37－0220

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

TOTTORI BANK